

講演：『海図150年の歴史と海洋情報』 (第83回月例会)

■講演概要等

1871年(明治4年)、兵部省海軍部内に水路局が設置され、測量から海図製作まで一貫して手掛ける近代的水路業務が開始されてから今年で150年を迎えました。

国内初の海図「陸中国釜石港之図」が刊行された当時の測量は、重りの付いたロープを海中におろして水深を測る「点の調査」でしたが、現在はマルチビーム測深器により、広範囲の海底地形を一体把握する効率的な「面の調査」へと進化するとともに、1995年には電子海図が刊行され、2013年からは、国際航海に従事する船舶へのECDIS(電子海図情報表示装置)の搭載が順次義務化されています。

また、2019年からは沿岸海域の衛星画像や海流、気象など200項目以上の海洋情報を集約し、刻々と変化する海洋状況をリアルタイムで表示することができる「海洋状況表示システム」(愛称・海しる)の運用が開始されました。

今回は、第五管区海上保安本部海洋情報部長として近畿・四国地方における海洋情報業務を統括する馬場典夫氏から、「海図150年の歴史と海洋情報」と題して進化する海洋情報業務について講演していただくこととしております。

■講師

第五管区海上保安本部 海洋情報部長 馬場 典夫(ばば のりお)氏

■開催日時

令和3年7月28日(水) 15:00~16:00頃まで

■開催場所

神戸市勤労会館 2階 多目的ホール

神戸市中央区雲井通5丁目1-2 電話 078(232)1881



■主催

公益社団法人 神戸海難防止研究会(担当:渡川又は藤原)
電話 078(332)2035

入場無料(定員40名)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大防止対策といたしましてマスクの御着用をお願いいたします。